

応援、母ちゃん！

—子育てしながら働く母親たち—

どうなる、3人目

15

たまむら ふみ

玉村 文



はじめにー3人目の壁ー

何名の子どもをもつかどうかは基本的には夫婦の意思で決定されるものだと思います。一方で、希望人数通りにはならないことも多いです。国立社会保障・人口問題研究所が公表した2021年の出生動向基本調査によると、夫婦が理想とする子どもの人数は2.25人と2002年の調査から減少が続いているようです。夫婦が実際に予定している子ども数は2.01人でこちらは横ばい。夫婦の最終的な子ども数を示す「完結出生子ども数」は1.90人と過去最低を更新したと報告されています。

出産願望はあっても家計や育児サポートを心配して第2子の出産をためらうことを「2人目の壁」と呼ばれています。そしてさらに家事や家計、出産年齢などの要因が立ち上がる「3人目の壁」という言葉も。希望として子どもを3人はもちたいと思いつつも、実際の予定は1人か2人の子どもを産んで育てるといふ家族は、決して珍しいことではないと上記の調査から見て取れます。

そもそも、子どもがいる世帯数よりも、単独世帯や高齢者世帯の割合が高い少子高齢化社会です。すでに子育て世帯はいわゆる標準的な世帯ではないという社会に生きているのです。

1. 我が家の

3人目の壁は突然に

現在4歳、2歳の兄妹を育てる我が家。育児と家事は夫と分担しながら、仕事に自律的にコントロールできるようになった頃。そろそろキャリア的に次のステップを考えたい、キャリアの幅を広げてみるのも良いかなと思い始めていた時期でした。子ども二人とも言葉でやりとりできるようになり、赤ちゃん感が薄れて幼児になってきた頃でもありました。とはいえ保育園通いの毎日、発熱や体調不良で病欠はよくあること、仕事の調整に毎月ヒヤヒヤしています。先日、下の子は風邪を悪化させ、人生二度目の肺炎で入院。二度目だったので、夫が初めて付き添い入院をしました。もちろん体調不良は一家に伝染し、私も夫も体調不良が続いていました。そんなときわたしの妊娠が分かりました。

この間、子ども達の病気をことごとくもらうため、体調不良の時期が続いていました。つわりのような症状も感じてはいましたが、体調不良の症状だろうと勘違いしており、なかなか気づきませんでした。後から振り返ってみると、あれは風邪ではなくつわりの症状だったのだらうと思ひ至ります。そのような状況で、妊娠に気づいたため、とても驚きましたし、喜びよりも今後どうしようという不安を先に感じてしまいました。子ども達は大きくなるとはいえ、仕事と子育てと3人分引き受けられるのか、経済的には大丈夫なのかなど、一瞬頭が真っ白になってしまいました。一家全員体調不良という状況でなかったら、ここまで不安に思うことはなかったかもしれません。最後の子どもになるだろうから子どもが増えるこ

とは嬉しいという感情と、経済的に大丈夫なのか、部屋数の多い家に引っ越さないと暮らしが成立しないなど現実的な問題が先に浮かんできました。正直な気持ちを書き残しておくとする、後者の方がやや大きかったかもしれません。

2. 高齢妊婦、

出生前診断をするか迷う

先述したような不安やわたしが高齢妊婦だということもあり、2人目までは特に考えていなかった出生前診断を受けるかどうか悩みました。血液検査で、侵襲性は低いうえに精度は高いらしいので、試しに受けてみても良いのかなと思いついたのです。先天的な疾患のある子どもをもつママ友の存在も身近でした。また、3度目の妊娠、なにかこれまでと違う経験をしてみたいという思いもありました。同じ妊娠過程はないとはわかっているつもりではありますが、なんとなく先を想像できてしまって、最後の妊娠出産になるだろうからこれまでにない経験をしてみたいという思いがありました。しかしながら、悩んだ結果、検査は受けないことにしました。

NIPT(新型出生前診断)を受けるかどうか、産婦人科の主治医に相談し情報をもりました。夫は文献を読んだり検査の精度について詳しくなっていました。妊娠期間のうち限られた時期しか受けられないため、2,3週間ほど情報収集をしたり夫婦で話し合う

時間をもちました。夫婦で話したこととしては、検査の結果次第で子どもを諦めるのかどうか決める、ということではない限り検査を受けない方が良いたらという結論になりました。どうせ産むのであれば、妊娠中の検査の必要性は低いと結論づけたのです。事前に知っておくほうが、生まれてからの生活について事前に整えておける利点があると検査の趣旨に記載がありましたが、検査の費用も高額ですし、夫婦で平日昼間に2,3回通院しなければならないということとを鑑みると、検査を受ける優先順位は高くないと決めたのです。

無事に生まれてみてからわかることもあります。我が子のことならどのような状況でも引き受けられるとまでも思えません。その時になってみないとわからないし、見通しをもって計画していたことが突然変更しなければならないことも当たり前のように起こるでしょう。予防できることとそうではないことも、予防しすぎない方がよいこともあると思います。子どもにかかわることは総合的に判断していくしかない、たとえ後悔したとしても、その時の環境や条件で総合的に判断したのだと受け入れられるように引き続き考えていきたいなと思います。

おわりに～今後の予定～

予定日は来年の4月中。その前の3月から産休に入る予定です。夫は、第一子、第二子の際には取得できなかった育休を取得し

たいと希望しています。最後の子どもになるだろうから、育休取得も最後。育休を体験できなかったと後悔がないようにしてほしいなと思っています。わたしは3度目の産休、育休を過ごすことを見越して、その期間に経験したいことを前向きに考え始めています。第二子の育休中に参加したママ友コミュニティでの経験は、その後の仕事復帰へも良い影響を及ぼしました。産育休を通じて、これまで出会えなかった方々と交流できる機会や、新たな出会いを求めて、自分を開いていく機会にもできればと思っています。先を想像しながらも、出産までの道のりと出産後の状況次第で、変更していくことも多いかもしれません。第一子のときは大事な約束の日に子どもの体調不良で参加できないことで涙したこともありました。そんなことは日常茶飯事と思って、柔軟に対応したり変更していけるようなタフさが身につくつあります。子育てや自分の仲間づくりが、わたしをタフに、ポジティブにしていってくれているように感じています。3人目もなんとかなる、なるようにするスタンスで迎え入れたいと思っています。